

三鷹市立第七中学校 令和4年度【技術・家庭】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	技術	○これまで重視してきた実習における生徒同士の「学び合い・教え合い」の取組が数年にわたり実施が厳しい状況となっている。それでも欠かすことのできない活動であるので、毎時間、密にならない工夫に苦慮しながら授業を進めることが必要となっている。	○教科ガイダンスと安全指導は、1年生にとって必要不可欠な内容なので、今年度も十分な時間確保を行って実施する。 ◎ビデオカメラによる実演提示、録画動画による資料提示、タブレットによる検索など視聴覚機器を多用した時間の有効活用。 ○授業規律と事故防止の観点から、作業時の手洗い、密状態にならない意識作り、マスクの着用、私語の厳禁等を指導し実施を徹底する。
	家庭	○調理実習ができなかった分、被服実習に改善が図られ、生徒のスキルアップがうかがえた。	○今年度も調理実習が不可能な分、被服実習を増やして対応し、ミシンやアイロンなどの日常的に利用できるように指導する。今年度は題材として、「タブレットのケース」の制作を予定している。
第2学年	技術	○時間的には余裕をもちながら実習に取る組ませたので、手際よさが表われ、まずまずの作品レベルとなった。	○生物育成領域では、都市部における栽培の試みとして「再生栽培」の指導の実施。 ◎ビデオカメラによる実演提示、録画動画による資料提示、タブレットによる検索など視聴覚機器を多用した時間の有効活用。 ○作業時の手洗い、密状態にならない意識作り、マスクの着用、私語の厳禁等の指導と完全実施。
	家庭	○調理実習、被服実習ともに改善が図られ、生徒のスキルアップがうかがえた。	○今年度も調理実習が不可能な分、被服実習を増やして対応し、ミシンやアイロンなどの日常的に利用できるように指導する。昨年度の「タブレットのケース」の制作同様に、メイン題材として「幼児のおもちゃ制作を予定している。
第3学年	技術	○少ない授業時数でありながら、受験における内申点としてのの重みは大きい。明確な評価・評定の算出をすることが求められる。	○情報分野で、PC室の校内タブレットを使用し、作品制作とデータ処理のできた情報教育を実施する。 ◎技術室での実習において、ビデオカメラによる実演提示、録画動画による資料提示、タブレットによる検索など視聴覚機器を多用した時間の有効活用。 ○作業時の手洗い、密状態にならない意識作り、マスクの着用、私語の厳禁等の指導と完全実施。 ○信頼される評価・評定のための対応として、評価項目や方法を事前に公表し、作業や作品の評価基準と実際の評価点を明記した個票を毎学期全生徒に配布する。
	家庭	○作品制作に関する意欲は高いが、個々の差が大きいので浄化後の利用も考えたい。	○調理ができないため、被服中心に各時間の目標を決めてその進捗状況を確実に把握する。昨年度の「タブレットのケース」の制作同様に、メイン題材として「ランチトート」の制作を予定している。